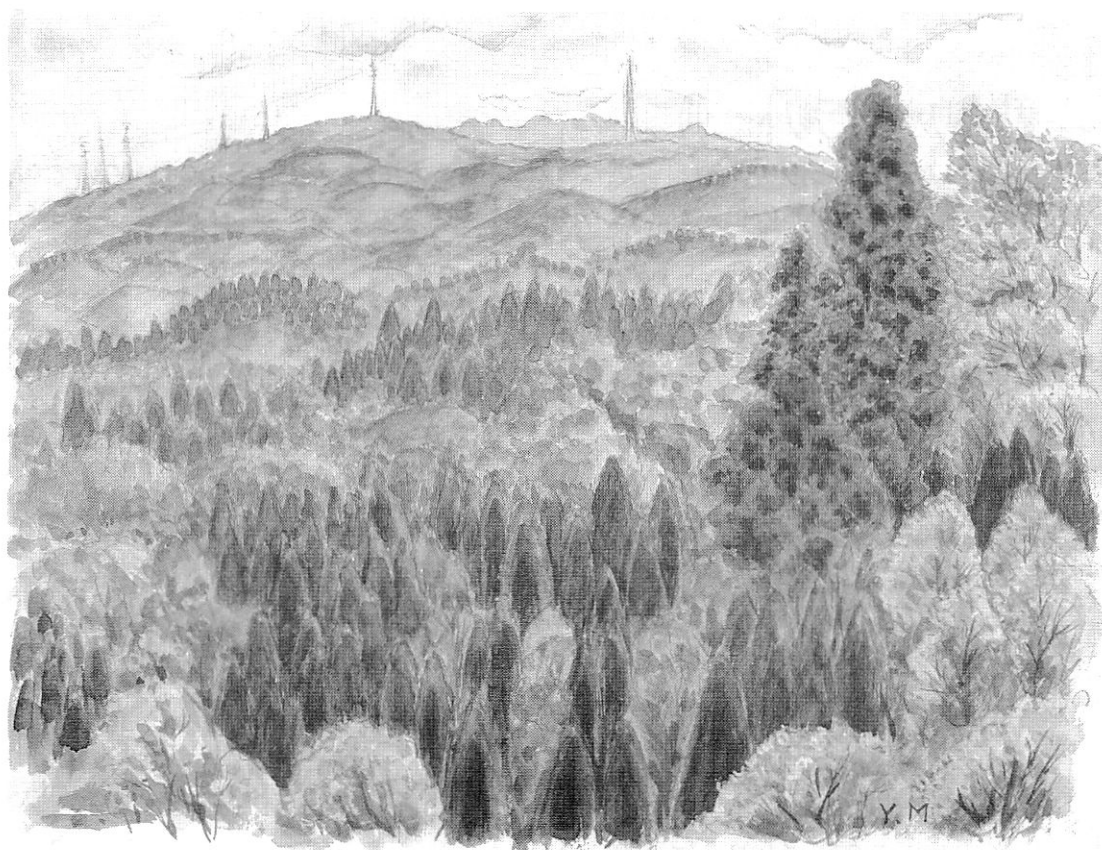


協議会ニュース 48号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 1993. 12



猿 投 山

この風景は、猿投山の西端の尾根を、瀬戸の海上（かいしょ）にある物見山の方向から眺めたところです。

物見山の頂上は東側には樹木が茂っていて展望は全くきかないので、少し東へ灌木をかけわけて下ると視界が開けたところがありました。

（次ページの本文に続く）

★ 表 紙 の 絵 ★

標高629メートルの猿投山の頂上部が僅かにのぞいている程度ですが、その西尾根の山麓部の緩やかな傾斜で広がる山体が意外なほど大きく感じられ、そのままブッシュをかきわけて山頂までたどりつきたい衝動にかられました。

この辺一帯は頂上まで愛知高原国定公園に指定されているのですから、登山歩道を整備してほしいと思います。

尾根筋に高圧送電線の鉄塔が林立していて、少し興醒めではありますが、いつかたどってみたいルートです。

松林 幸雄

簡単なウッドクラフト ⑪

名古屋支部 椿 幹雄

樹や竹を利用して小品の色紙立てを作ってみませんか？

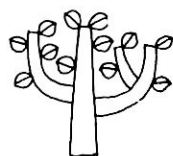
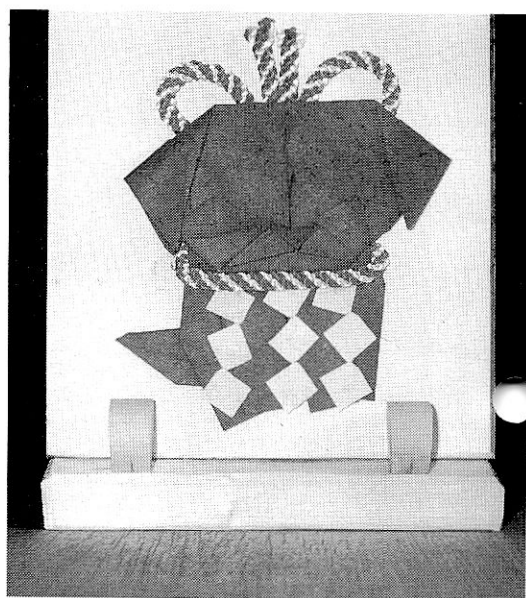
I. 準備品

- 1) 色紙 (W120mm×H135mm)
- 2) 枝か幹 (直径20mm×厚み10mmを3個)
- 3) 台用として (H15mm×W35mm×長さ120mm)
- 4) 木工ボンド
- 5) 定規
- 6) 小刀
- 7) 鋸

II. 作り方

- 1) 小刀で底辺の直径20mm、厚み10mmの枝3個を、10mm程の巾に削る。
- 2) 底辺から10mmのところまで10度の勾配で削る。
- 3) 長さ120mmの台の中心から左右30mmのところに印をつける。
- 4) 台の中心より30mm両外に枝2個をボンドで付ける。
- 5) 台の前側2個の枝が接着した後、色紙を一度立ててみて、3個目の枝を勾配を前にして適位の場所でボンドをつけて定着させる。

III. 樹の場合では皮が付いていても、見栄えがする。また、竹は枝よりも稈を使用するとよい。台は蒲鉾の板の使用もよい。



面白ウォッチング

池田 芳雄（顧問）

「自然観察」といっても、特に構える必要はないでしょう。写真の好きな方、スケッチの得意な方、歌を詠まれる方、多才な皆さんが「得意に帆をあげ」フィールドへ楽しくでかけることこそ何よりも大切だと思います。最近私は「山城と湧水」に深い関心を寄せており、地質調査にでかけると、真っ先に城跡を訪ねます。山城はその地域の高所にあつて、景色の良いのは勿論のこと、地形を眺めるのも大変好都合という点もありますが。

◇水と馬の伝説

籠城の折、水不足に悩まされた伝説を紹介します。城を攻める場合、堂々と押し寄せる正攻法のほかに、水攻め戦法があります。山城の場合は、城の水の手を断ち、日乾し攻めにする「断水道」ともいう方法です。それに対し、籠城軍の対抗手段は、城中には水が豊富にあるかのように見せかけ、寄せ手を欺くという兵法があります。つまり、水の代わりに、白米を流すわけで、「白米伝説」はここから生まれました。

苗木城（中津川市）には、岩の上へ馬を乗せ、米で洗ったという「馬洗岩」の伝説があります。阿坂城（松阪市）にも全く同じ話があり、この城は別名「白米城」とも呼ばれています。また、武蔵国松山城（東松山市）にも同様の伝説が残されています。日乾し攻めにされた籠城軍は、丘の上の広場へ何頭もの馬を連れ出し、タライの水で洗っているように見せかけたが、実は白米を代用したということです。同じ内容の「白米伝説」が各所にあることは、山城の籠城は、深刻な水不足に悩まされ続けたに違いありません。



◇湧水の豊富な山城

地質的好条件に恵まれ、水に不自由しなかった山城の代表は、あの「女城主」でよく知られている岩村城（岐阜県岩村町）が、第一にあげられます。それも標高700 mに近い所から水が湧き出している特例中の特例なのです。ここの岩盤は花崗岩からなっていますが不思議なことに豊富な清水が湧き出し、そこは「霧ヶ井」と名付けられています。もう一つ似たような例は、鹿伏^{かぶと}兎城（三重県関町）です。標高264 mの山頂近くに湧水が、見られるのです。

また、標高240 m付近に築かれた石巻山城（豊橋市）は、「このしろ池」の水を生活用水としたようです。石巻山は、山頂と麓とは岩質が異なっており、その境から地下水が湧き出し、小さな池を造っています。岩古谷^{いわこや}城（設楽町）は、標高799 mの石英安山岩からなる絶壁の山へ築かれた城です。ここは地形と植生との条件がうまく作用して、水量こそ豊富とは言えませんが、山腹斜面から水が涸れずに染み出しています。

もう一つの例として、高天神城（静岡県大東町）を外すことはできません。ここは、標高130 mほどの山で、山頂部に帯水層の役割を果たす砂礫層が分布しています。そのおかげで山頂に「かな井戸」と呼ばれる井戸が掘られており、さらに山腹の不整合面から染み出した水溜りは、「三日月井戸」と名付けられています。

いずれにせよ、これらの山城は、非常に特殊な例と言えます。水の湧き出しているような城跡は、ハイキングに出かけるのにも理想的な山であることは間違いありません。皆さんも確かめてみてください。



境川河口から

〔境川自然観察会〕



宮原英明（刈谷市）

「おじさん、あれはトビ？ ミサゴ？」
元気のいい小学校4年生の歩君の指さす方を見ると、遠くの空にミサゴが見えます。

「ミサゴだね。よく見つけたね」

「みなさん、ミサゴが出ましたよ」

参加者は、歩君が見つけてくれたミサゴが魚を捕らえようと、何度も試みているのをじっと眺めています。三河と尾張の境界を流れる境川の河口で、毎月1回行われている『境川自然観察会』でのひとコマです。

『境川自然観察会』は、1991年に誕生しました。誕生のきっかけは、地元の刈谷市立衣浦小学校PTAが主催して“ふるさとの自然を知ろう”というテーマで、境川河口でバード・ウォッチングが行われました。「西三河野鳥の会」のメンバーがお手伝いをし、90人ほどの親子は、自分たちの身近に残っている自然や自然の中で生きている鳥たちを見て楽しみました。鳥合わせが終わり、解散したすぐあと、「今日はどうもありがとうございます。バード・ウォッチングがこんなに楽しいとは知らなかったやあ。こんな会を続けてもらえんかねえ」という声を数人の方からお聞きしました。その年の秋に自然観察指導員の仲間に入れていただいたことや境川河口は私のフィールドで、境川の自然をひとりだけで楽しんでいるのはもったいない、多くの人と境川の自然を楽しみたいという気持ちもあって、「やってみましょう」とお答えし、集合場所と時間を伝えました。

そして、いよいよ12月1日が、第1回の『境川自然観察会』の日です。はたしてどれだけの人が集まるだろうか、天気は大丈夫だろうか、難しい質問があったらどうしようなど不安もありましたが、15人の参加者と小春日和の河口堤防を歩きながら、カモの仲間

をはじめ33種の野鳥を観察しました。運よくモズのはやにえを見つけたり、オオタカの若鳥も現れたりして、『境川自然観察会』の前途を祝福してくれているようでした。

野鳥観察を中心に四季折々の草花、草や木の実、そして、虫などの観察をしている『境川自然観察会』が誕生して、まる2年が過ぎました。野鳥は「西三河野鳥の会」の会員で新川中学校の板倉君、植物は碧南の磯貝さんが案内してくださり、毎月第1日曜日に境川河口に集まる仲間がふえてきています。

『境川自然観察会』は会則も会費も代表も全くなく、都合のつく人がブラッと境川河口にやって来て、教えるという肩に力が入ったことはせず、参加者がお互いに「ああだ。こうだ」と言って学んでいくという姿勢をとりつづけています。また、境川の自然の様子や自然愛好家の声を掲載した『境川通信』を月1回発行し、すでに40号になりました。観察会や『境川通信』を通して、境川の自然に親しみ、ふるさとの自然を大切にしようという仲間がふえていくのを期待しています。

境川河口に親子で参加される人、ご夫婦や一家で参加される人、ひとりでやって来る人など様々ですが、いろいろな人と出会えるのも



自然観察会の楽しみのひとつです。

「おじさん、ぼく大きくなったら環境庁に勤めたいんだ」と、目を輝かせて将来の夢を話してくれる歩君のような子に出会えるのを楽しみにしています。

境川自然観察会

◆毎月第1日曜日 9時半～12時

◆境川浄化センター正門前集合

◆連絡先 宮原 TEL(0566)23-8223



名古屋自然観察会 (愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部)

1993年12月10日 No.IV-9

名古屋支部代表 浅井 聡 司

TEL 052-703-9482

なんじゃもんじゃ通信

TOMBOWの眩き 秋の中尾峠に登った。雪をいただいた笠岳、杓杖岳のスカイラインが、青空と一線を画していた。ブナの樹林に入り、シラビソの樹林を過ぎ、焼岳の中腹まで登る。下を見ると大正池が見えた。焼岳の火砕流で塞ぎ止められてできた池は、永年の土石流で埋めつくされていた。そんな風景の中でから何かが失われている。耳にはいたのだが、「サルオガセ」が見当たらないのである。(3日)

秋の湿地に入った。場所は森。シデコブシの幼木があった。見事な花を見せてくれるまで、無事に育ってほしい。シラタマホシクサの種を集めて、絶えてしまったところに、再び蒔いてみた。(7日)

岳見高原自然観察会では、トウキョウサンショウウオを見た。今年、生まれたものであろう。傍らには、リンドウが咲いていた。野に咲く花の名前は知らない、けれども野に咲く花が好き。ここのキャンプカウンセラーたちが、静かに守ってきた野の花を、今年一年の観察会で数多く発掘してしまった。その喜びを感じるとともに、保護してゆく重大さを思い知る。(14日)

東山八事裏山では、道路工事中。倒されたコナラの年輪を数え上げると45年。その隣にナシに似た小粒の実が落ちていた。ミチノクナシ?。とにかく初めて見る木なので、武田さんも驚いていた。10年近く観察会を続けているが、新しい発見をすることがある。湧き水の流れる溝で、ヤゴを捕まえる。子供たちは持ち帰りた、大人たちは返して上げなさいという。話し合いの末、自然に返すことになった。そのやりとりをみて、自然と友達になるとはどういうことなのだろうと感じた。(21日)

瑞穂子どもの家の観察会。子供たち、お母さん、お父さんといっしょに八事興正寺周辺を歩く。子供たちは、木の葉や木の実を集めることが好きだ。手にとって見て、直に触れることを勧めたい。4、5歳の子供たちに秋ってどんな季節なのかを教えたいと思い、落葉のつまった90㍑の袋を6包み用意した。落葉のベットをつくり次々に子供たちをその中に寝転ばせた。子供たちの反応は、想像した以上のものであった。それにまして驚いたことは、子供たちが散々遊んだ後で、今度は、お母さん方が遊びだしたのである。さあ飛び込め、それ埋めろ、さあ掘り起こせ。落葉を肌で感じる、全身で感じる。あの思い出は忘れないであろう。(23日)

今年最後の相生山自然観察会。新人の指導員の方々が多く、私の拙い指導法をお目につけた。来年からは、彼らにがんばってもらわなければ、祈るばかりである。心残りとして、カリンを発見してしまったこと、参加者のみなさんがカリンを持ち帰ってしまったこと。観察会は、あくまで観察会であり、採集会ではないことを伝えたい。(28日)

11月は、これ以外に、大高緑地で自然観察会(12日)があり、湿地研究会が東谷山でシデコブシの調査(28日)をしたということです。

私の自然観察



相地 満（知多支部）

1 自然観察のはじまり

教師になって2年目の春のことでした。新4年生の外庭掃除の分担箇所は、樹木園。春の嵐も収まった5月始めの頃、Iさんという女の子が、掃除後、1本の草をひいてきました。「これ何という花なの。」Iさんは私に尋ねました。見ると、昨春、私も見つけて、気にはしていましたが、そのままになっていた花でした。「うーん、わからない。」と答えて、去年、私も樹木園で見かけていたことを告げました。すると、Iさんもその頃から気が付いていたと言います。この子は、そういう足元の、小さな草花が気になる子なんだなと思いました。

その晩、私は手持ちの図鑑を引き出して見ました。だが、やはり、わかりませんでした。数日後、偶然、奈良の書店で新しく出版された図鑑を見て、キキョウソウとわかりましたが、それ以前に出版されている図鑑には、まだ記載されていなかったのです。奈良から帰ってきてさっそく「あれはね、キキョウソウっていうんだよ。葉が茎を取り巻いていて、段のようになっているからダンダンギキョウともいうんだって。実の所に窓があって、幕がある。風が吹くと幕が上がってそこから種子がこぼれるんだって。」驚きながら、じっと耳をそばだてているIさんの黒い瞳が輝いていました。

それからというもの毎日のようにIさんやクラスの子供たちが草を取ってきました。私は、毎晩のように夕食を食べながら、どさっと買い込んだ図鑑を片手に草の名前を調べはじめました。「これは。これは。」の問いに答えるために。それが私の自然観

察への出発となりました。

もっとも、幼い頃から私は、自然が好きでした。小年期にも、青年期にも深い自然との関わりがありました。だがそれは、どこまでいっても私個人の楽しみや、単なる嗜好性にすぎないものであり、私一人の体験に終わるものでした。それは、今使っている用語としての自然観察とは、ずい分、味の違う体験でした。今、自然観察というとき、私は、自然を見るときに起こる感動体験の共有や、自然を介在させたときに生まれる人と人との交流を豊かに企てていく活動のことを、自然観察と呼びたいと思っています。

2 自然観察の発展

それから顧問をしていた理科クラブの活動の中心を自然観察において、子供と一緒に自然の中に分け入っていきました。その活動がやがてPTAの親子自然観察会に発展していきます。年を追うごとに30名から60名、100名から120名と参加者数は、飛躍的に伸び、最後には160名という数になりました。観察コースを日常的に歩く方々もみえ、かまぼこ板を使った名札かけの運動が取り組まれたりもしました。

やがて、公民館や社教センターで企画される自然観察の講座を受け持つようになります。だが、持続性もなく毎回、参加者の移り変わる観察会に疑問を感じた私は、継続的な地域の自然観察会として姫島児童館自然観察クラブを3年の計画で設立しました。

この活動では子供中心に3年間に44回の

合宿を含む観察会を行い、のべ2,000人をこえる人が参加しました。3年間続けて参加してきた人たちも多く、私自身が自然観察について考えるよいきっかけになりました。

その後、観察会の種々な場で知り合った人たちと現在の自然観察会／自然の学校を運営しています。これは、自然観察の理想を実現していく場として永続させていきたいと思っています。

3 自然観察の理想・今考えていること

自然観察は何を目指すかということです

が、私は次のように考えています。

- (1) お互いの感性を高める。
- (2) 人と人との関係を豊かにする。
- (3) 人を含めた自然の仕組みを理解する

自然の学校の場合は、自然観察と子育てや家族のあり方が強い関心事となっていますが、自然観察はそれにとどまらず、これからの学校教育の中心的な課題として位置付けられていくものと考えています。そのための実践や理論を積み重ねていくよう、体系的な活動を進めていきたいと思っています。



参加した小学校4年生たちの感想

●自然観察会に、始めて、行ったこと

4年 藤原 千佳

10月3日、私は、友だちといっしょに相地先生がやっている自然観察会に行った。3日の観察会は、半田市の岩なべで行われた。新美南吉のふるさとだからである。観察会は半田市の岩なべであるのだから電車で、太田川から半田口まで行った。駅から先生のいるし料館まで行き、そこで先生にあった。私は、日曜日に先生にあったことが、とてもうれしかった。

先生にあってすぐ、し料館の中に入り、学級新聞のざいりょうにしようと思ってもってきたメモを出した。し料館の中にあった「ごんぎつね」をたいしょうとした南吉のことをどんどん書いた。書いてる内に時間だったので、先生のいる所へ行った。

それから、先生と私たちを入れて20人の人たちといっしょに、新美南吉コースを回った。

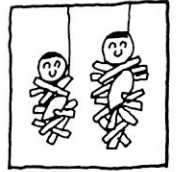
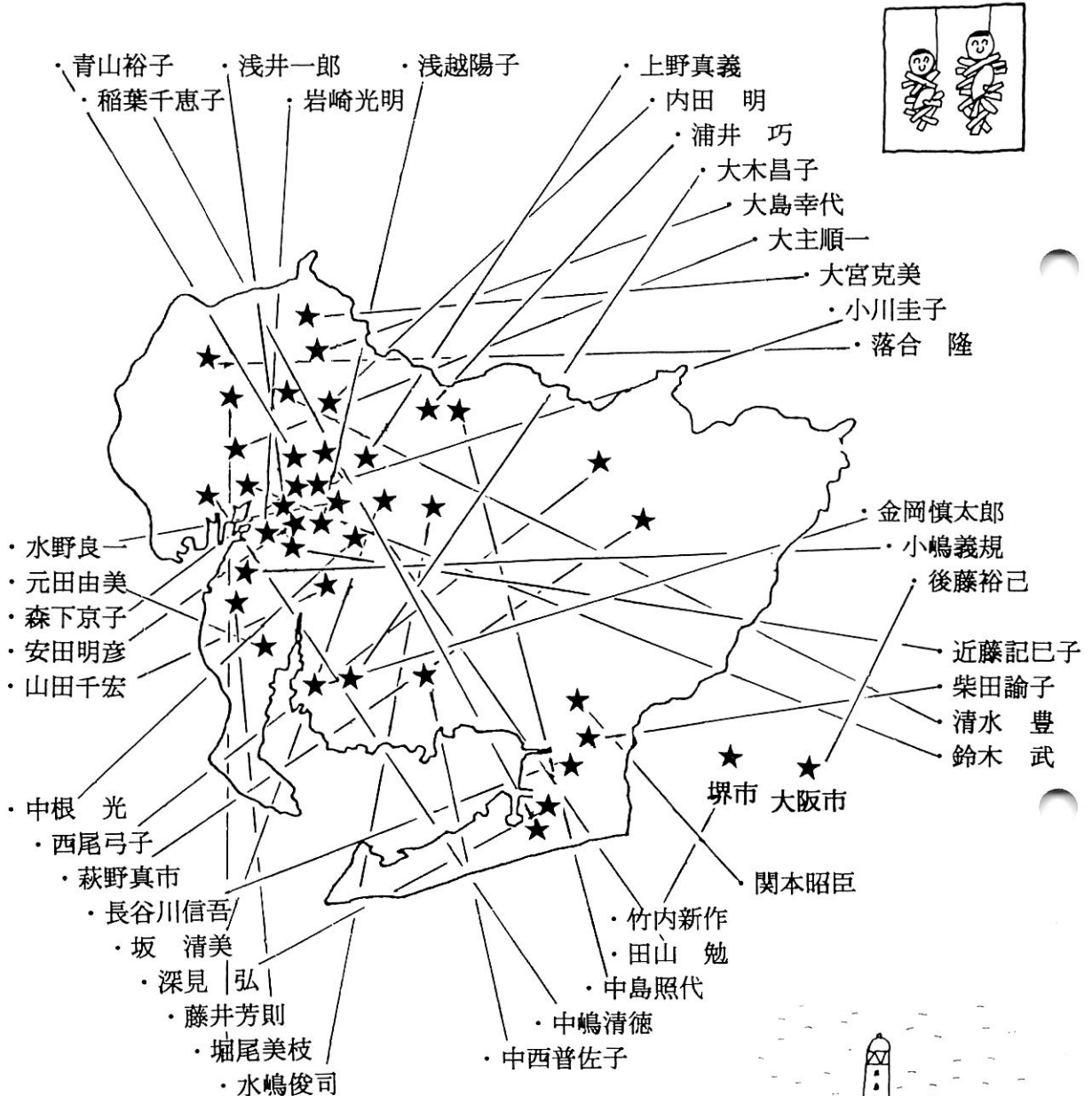
最初に行った南吉の家でもらったパンフレットと、文章をもってどんどん見て、記録してコースを回った。コースのところどころで、南吉の家でもらった文章の中の文を1つずつ読んでいった。コースの回りのものもメモしていった。コースを回っているとひがん花がとても多いことに気づく。そして、いろいろな自然があることに気づく。そうしてどんどんいくうちに、最後の観察場所の川へついた。土手から下の川へ入れる階段だを見つけたので、私たちは、ズボンを上へもち上げながら川へはいっていった。川の中に、石がつんである所に、犬の死体があった。私は、気もちがわるいという気もしたが、かわいそうと思う気もちのほうが強かった。もし、それが学校だったら気もちがわるいと思うだけだっただろうと、そのあとで思った。川から出て、そして、最後の観察が始まった。川のちかくの花や草、鳥や虫をしらべた。川のちかくでは、とてもギリギリの仲間が多かった。私はそこでとても多くのことを知った。その中で一番心にのこっているのが、ギリギリの仲間には、同じ種類でも緑色けいとかつ色けいがあること、緑色けいは緑色でかつ色けいは茶色だ。二つ目に心に残ったことは、よれよれのちょうを見たことだ。そのちょうは、ぼろぼろのはねでも力をふりしぼって、ひがん花のみつをすっていた。私はそのちょうがとてもすごいと思っていた。ほかには、13しゅ類も鳥がいたこととか、ひさしぶりに見る田んぼのことがあった。この観察会では、南吉のほかの話に出てくる所も見えたり、めずらしい実や虫も見れた。帰りは行きと同じように電車にのって帰った。電車の中できっぷをかったこと、子どもだけで行ったのは始めてだったのでそれもうれしかった。半田の観察会は、私にとって楽しくて、勉強にもなったのでこの観察会をもとに、これからできるだけ自然を大せつにし、どんどん観察会にでたいと思った。

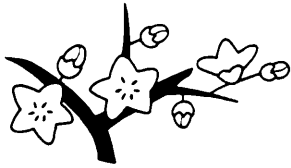
自然のあひだ

新会員紹介

(平成5年自然観察指導員講習会から)

平成5年10月9日～11日に渥美半島の伊良湖国民休暇村で自然観察指導員講習会が行われ、新しく次の41名の方が協議会に加入されましたのでご紹介します。





・青山裕子 (名)

〒465 名古屋市東区香流2-1408

今度皆さまの仲間入りをさせていただきます。
名東区在住の青山裕子です。「時々、日常から離れて自然の中に身を置き、何もしないでボーッとしているのが好きです。そして、それに飽きたら回りの動植物をじっと観る、そうすると、『どうしてそんなことをしているの?』『どうしてそんな格好をしているの?』と、『なぜ?』が次々と湧いてくる。自分なりの仮説をたてて想像を楽しむ。そして調べる。そんなことをたくさんの人達とできることを楽しみにしています。」

どうぞ宜しくお願い致します。

*現在、相生山緑地と猪高緑地の観察会に家族で参加しています。

・浅井一郎 (名)

〒457 名古屋市南区菊住2-18-17

講習会に参加し、自然を観察する視点や動植物の自然の環境に適応するさまには、目を見張るものを感じました。

先輩諸氏の指導を得て、時間の許す限り勉強したいと思います。

・浅越陽子 (名)

〒458 名古屋市緑区古鳴海2-57

嫁ヶ茶屋住宅B1-105

自然観察の大好きな浅越です。

現在、植物の個体の名前を覚えるのがせいっぱいの状態です。

講習会では個体名に固執しない、とのことでしたが・・・・・・

東山植物園で、ガイドボランティアをしています。まだまだ知りたいことばかりですので、各観察会に参加して知識を身につけたいと思います。よろしく御指導ください。

・稲葉千恵子 (東)

〒441-33 豊橋市杉山町知原

12-1306

10月9日~11日の講習会を受講し、新しく自然観察指導員連絡協議会に入れていただくことになりました。これを機会に、できるだけ観察会等に参加し、勉強したいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

・岩崎光明 (知)

〒476 東海市富木島町伏見3-19-7

指導員の仲間になりますが、まだまだ勉強不足です。野鳥観察を中心に自然を楽しみ、あせらず急がずマイペースで一步一步前進して行きたいと思います。

よろしくお願い致します。

・上野真義 (名)

〒465 名古屋市名東区藤巻町

3-2-435

皆さん、こんにちは。

私は上野真義(さねよし)といいます。

10月の伊良湖岬での講習会に偶然参加することができ、自然観察指導員の仲間に入れてもらうことになりました。私はまだ学生で未熟者ではありますが、よろしくお願い致します。

・内田 明 (名)

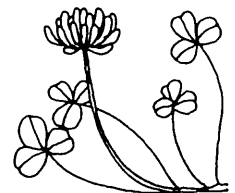
〒463 名古屋市守山区四軒家2-548

・浦井 巧 (名) (尾)

〒489 瀬戸市宮地町104-24

10月の講習会で新しく指導員の仲間入りをさせていただきました。

講習会を受けただけのペーパー指導員ですが、出来る限り頑張りたいと思います。どうぞよろしく。



・大木昌子 (西)
〒445 西尾市つくしが丘4-12-4
花が好き、というだけで、大胆にも指導員に
登録してしまいましたが、何も知らないことに
今さらながら飽き果てています。

でも、子供たちやお年寄り、身体に障害のある
人たち、誰でもが自然と仲良くなり、自然を
大切に思えるような、そんな観察会をやること
ができれば、と思っています。

・大島幸代 (尾)
〒484 犬山市下時迫間1-49
大竹先生のご指導でネイチャークラブに参加
させて頂いて1年半になります。元々、山歩き
は好きでしたが、こんな素晴らしい世界がある
とは・・・と、のめり込んでしまいました。

足手まといとは存じますが宜しくご指導お願
い申し上げます。

・大主順一 (名)
〒453 名古屋市中村区菊水町
2-4-19

・大宮克美 (尾)
〒484 犬山市前原向屋敷217-26
「自然のすばらしさをみんなで知ることが、
自然を守る力を育てる」そんな思いではじまっ
た生協ネイチャークラブに参加しています。講
習会を受け、自然保護への思いは高まるばかり
ですが、何分力不足です。今すぐには無理です
が、何年後かには、お役に立てる日がくるよう
がんばりたいと思います。

・小川圭子 (名)
〒468 名古屋市天白区植田2-1501
シティコーポ植田B1005

・落合 隆 (尾)
〒491 一宮市時之島字大東81

・金岡慎太郎 (西)
〒447 碧南市幸町6-11向山住宅
B-108

・小嶋義規 (知)
〒476 東海市荒尾町西屋敷17

・後藤裕己 (未)
〒532 大阪市淀川区塚本5-6-21
酒井方

・近藤記巳子 (名)
〒457 名古屋市南区鶴田1-1-12
B-1

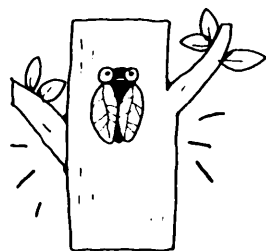
H3年秋の社教センターで行われた「名古屋
自然考」の講座を受講し、自然観察に関心をも
つようになりました。

自然の恵みを享受し、野草料理・野草酒を楽
しみたいと思います。

・柴田諭子 (東)
〒441-11 豊橋市石巻本町字野添
116

・清水 豊 (尾)
〒485 小牧市三ツ淵2350-124
大学卒業後10年あまり、仕事に追われ何
もできずにおりましたが、5年ほど前から野
鳥や昆虫の写真を撮りながら自分で学習し
ていました。自分の今の年令を考えると、そ
ろそろ少しでも社会に対して働かなければと思
い、講習会へ参加しました。

仕事の忙しさは以前より増していますが、
観察会への参加につとめたいと思っています。
今後、よろしくお願いします。





・鈴木 武 (名)
〒450 名古屋市南区西桜町85
メイツ桜台506

長らく指導員のインターンをしていましたが、
やっと仲間入りをさせて頂きました。先輩各位
の本職を持ちながらの活動ご苦労様です。

皆様方は双眼鏡にて遠くの物体の観察を指導
されていますが、反対にミクロの別世界を子供
に見せますと、たいへん喜ぶますのでお勧めし
ます。

・関本昭臣 (東)
〒440 豊橋市牛川町東小路1-88

・竹内新作 (未)
〒591 堺市菩提町2-1-12

・田山 勉 (名)
〒468 名古屋市昭和区南山町8
伊藤商事南山寮309

＊メッセージ

はじめまして、この10月に自然観察指導員
になったばかりで左も右もわかりませんので宜
しく御指導願います。

＊自己紹介

- ①名前 田山 勉 ②年令 44歳
- ③勤務先 伊藤忠商事(株)名古屋支社
- ④出身 東京 ⑤家族 妻と長女の2名
- ⑥趣味 読書・真向法・散歩

①活動 核の被災地への救助活動

(チェルノブイリ救援中部のメンバー)

＊近況

現在、寮生活をしており、寮の周り(含む
八事山)を散歩するのが好きです。

10/16(土)曇 午前中、落ち葉の上の
カタツムリ、ジョロウグ
モを発見・寮周辺・

同日 午後 コナラの木のどんぐりとの出合
い。小鳥のさえずりを聞く。

・八事興正寺・



・中嶋清徳 (名)
〒455 名古屋市港区九番町1-1-1
3-334

・中島照代 (尾)
〒489 瀬戸市新明町165-5

＊メッセージ

海上の森での初めての観察会は、何も知
らなかった私にとって、いろんな感激でいっ
ぱいでした。この感激を多くの人に伝えるこ
とが出来ると、これからの勉強の励み
になりました。新米をよろしく願います。

・中西普佐子 (西)
〒444 岡崎市筒針町元流145
東レ筒針寮

・中根 光 (尾)
〒470-01 東郷町諸輪字中市72-1

・西尾弓子 (西)
〒444-23 足助町追分字吉田1-2

・萩野真市 (西)
〒441-14 作手村白鳥西28

・長谷川信吾 (尾)
〒441 豊橋市花中町23-1パル206

・坂 清美 (名)
〒468 名古屋市天白区福池2-412
ゆうハウスB-202

・深見 弘 (西)
〒471 豊田市清水町5-19-50

やっと講習会の受講ができ、皆様方の仲間入
りができました。どうぞよろしくお願いします。

私の抱負としては、とにかく地方の啓蒙を主
眼としてやっていきたいと思っています。それには、
自分自身の力不足を感じており、もっともっと
勉強せねばと思っているところです。諸先輩方
の御指導をお願い致します。

森の新聞 第56号 '93.11

自然観察指導員京都連絡会通信「森の新聞」 93.11 第56号
布谷 知夫さんの「うむうむ」のタネあかし より抜粋

自然観察の際の、理解と知識は必要かどうか、という問題です。自然観察のまず第一の基本を、自分が自然を楽しむこと、そして次にその楽しみを人に伝えること、だと考えましょう。以下は私の個人的な意見です。自然観察には、知識も経験も不要。でも自然観察を長く続け、いつまでも楽しいと思えるためには、いつも好奇心が必要で、自然に関する知識があるほうが、好奇心は強く発揮できる。つまり知識があるほうが新しい発見がおこりやすい、と思います。もうひとつの点は、自然観察の楽しみを人に伝える際にも、知識があるほうが、より柔軟に、よりおもしろく人を案内し、自然のおもしろさを伝えることができるように思います。結論としては、自然観察をするためには、知識はなくてもいい、けれどもいつも知識を得ようとする姿勢を持っているほうが、ずっと自分もおもしろくなり、人にもその面白さを伝えることができる、ということでしょうか。あえて知識の量をひとつの軸に考えるとすれば、自然の観察には、沢山の段階があって、段階ごとに楽しみかたが違ってくるのだと思います。

面白いと思ったこと、楽しいと思ったことを蓄えていけばいいのではないのでしょうか。アカメガシワの例のように、知識として知っていることが、野外では実際にどうなっているのか、をひとつひとつ確認していくことが、自分の知識になります。あれ、と思うことはあとで調べておけば、絶対に忘れませんし、後の観察会で使うことができます。私は、今度アカメガシワの花に出会ったら、図鑑には雄雌別株なんて書いてあるけど、見て下さい、この木は同じ木に、雄と雌の花が両方ついているでしょう、なんて説明をしたいと思います。必要なのは、意識して見ることの訓練と、その積み重ねとしての経験なのでしょう。

自然観察指導員京都連絡会通信

事務局から

〔運 営 部 会〕

★ 運営部会（11/23 中小企業センター）
7名の運営部会員等が出席して、部会を行いました。主な内容は、次のとおりでした。

(1) 事業等の実施状況

県委託の自然観察会は、6回のすべてが終了し、参加者は延べ約560人で、今までになく多かった。10月の自然観察指導員講習会では、41名の加入者があり、会員数は373名となった。

(2) 平成6年度事業案

6年度の重点目標は、自然観察会の指導方法の充実を図ることと会員間の交流を強めることとする。

今まで行ってきた全県一斉自然観察会の代わりに、平成6年度からシリーズ観察会として、同一テーマで各地で観察会を行う予定とした。また、東海財団から冊子作りの委託事業が入る見込み。研修会は、5年度はあまり開催できなかったが、6年度はなんとか開催回数を増やしたい。

★ 理事会（11/28 名古屋市教育館）

11名の役員が出席して、本年度第2回の理事会を開催しました。運営部会とはほぼ同様の議題でしたが、次のことも検討されました。

(1) 平成6年度の役員

3役以外の理事が6年度は、一部変更になること。

(2) 会費の値上げ

会の会計が苦しくなっており、さらに郵便料金の値上げもあるため、会費を3,000円程度に上げる方向で検討する

とともに、支部への配分金の額等も検討する。

(3) 規約の改正

会員の脱退の条項としてあった、「自然観察指導員の資格を喪失したとき」を削除する方向で検討する。

(3) 自然観察指導員のあり方

自然観察指導員の再登録に際して、今までは協議会を通せばNACS-Jの会員にならなくてもよかったが、今後は必ずNACS-Jの会員となるよう義務付けられたこと。

また、自然観察指導員の類似の制度が林野庁や長野県・滋賀県・民間等で作られつつあり、こうした制度との調整等が今後の課題となること。

〔普 及 部 会〕

★ 新人指導員研修観察会について

6年1月から新人指導員観察研修会として毎月1回の例会を尾張部を中心に行います。

新人指導員のための観察会ですが、自然の仕組みを分かり易くみんなで考えようというもので、新人でなくても誰でも参加できます。お互いの楽しみながらの勉強会です。お互いの楽しみながらの勉強会です。お互いの楽しみながらの勉強会です。

申込は不要で、当日時間までにお越しください。3月までの予定は、次のとおりです。（すべて午前中）

① 「冬芽の観察」 1/ 9(日) 大高緑地

9:30 大高緑地第1駐車場奥集合

② 「樹形と樹皮」 2/13(日) 大高緑地

9:30 大高緑地第1駐車場奥集合

③ 「周伊勢湾要素の植物」 3/ 6(日)

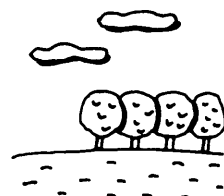
大森湿地 9:30 守山環境事業所前集合

期日	場所・期日	指導	参加
10/24	大高緑地(緑区)	14	140
11/ 7	定光寺(瀬戸)	14	65
5/ 8	野間海岸(美浜)	15	152
11/13	境川河口(碧南)	10	40
10/ 3	葦毛湿原(豊橋)	19	126
7/25	大入溪谷(豊根)	8	35
計		80	558

★ 平成5年度県委託自然観察会の結果
今年度の県委託自然観察会の実施結果の概要は左表のとおりでした。(数字は概数)

〔調査部会〕

協議会では、この冬まで(3月頃まで)「哺乳類分布調査」を行っています。哺乳類の姿、足跡、糞等を見たら、「月日・その場所・動物名・確認した方法」を、事務局(北岡明彦又は佐藤国彦)まで、ご連絡下さい。



☆編集後記☆

★ 今回は「私の自然」はお休みさせていただきました。その分、次回はたくさんご紹介できるようにと思います。

いつもの風景、季節のこと、庭の植物、山のこと、海のこと、雑木林のこと、そして昔のことなど、何でもお知らせください。等身大で、普段着のコーナーですので、「じゃあ、ちょっと出してみるか」という雰囲気でお送りください。

★ 新会員紹介のコーナーで、いただいたお便りはすべて掲載しましたが、まだ葉書を返送されていない方や「追加でもうひとこと!」という方は、下記の編集部会まで投稿してください。もちろん、「私の自然」コーナー宛てでも大歓迎です。

★ ちょっと周りのことを：私の家は愛知県の地図で見ると左上の県境のところにあります。50メートル先には木曽川の堤防が続いています。堤防に上がると木曽川の豊かな水の流れに圧倒されます。すぐ上流にダムがあるわけでもなし、この水の量は本物です。川幅が1キロはあるのでしょうか。そしてその遥か向こうには、養老山地や伊吹山が見えます。この冬は暖かいせいか、雪化粧はまだまだです。

明け方に、ときどき、何キロも上流にある鉄橋を上りのブルートレインが渡っていく音が、かすかな音でカシャカシャーカシャカシャーと聞こえてきます。こういう音っていいですね。この音、『さくら』でしょうか、それとも『あさかぜ』でしょうか。

★ 協議会ニュースの発行が遅れ、ご心配をおかけしてすみませんでした。みなさんからいただいた内容が奥が深くて、しみじみと味わいながら編集しております。ありがとうございました。

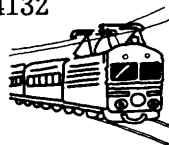
★ 次回原稿の締切は1月20日です。が・・・間に合わないかなと思われても一度試しに投稿してください。よろしくお願いします。

★原稿送付先

編集部会 〒491-02 一宮市奥町内込47-4 伏屋光信 ☎0586-61-4132



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



1 月～2 月の行事案内



★他支部の行事にも参加できますが、急な変更があるかも知れませんので照会の上、ご参加ください。

①主催 ②集合場所・時間 ③照会先 ④行事のテーマ・内容 ⑤参加費用 ⑥備考

「1 月 9 日（日）身近な人里で自然観察会」

- ①東浦自然観察会
- ②東浦町文化センター9:30
- ③降幡光宏 ☎0562-55-6855

「1 月 9 日（日）大高緑地公園自然観察会」

- ①大高緑地公園自然観察会
- ②大高緑地琵琶池ボート乗り場9:30
- ③石原洋一 ☎052-624-1998

「1 月 9 日（日）新人指導員研修観察会①」

- ①愛知県自然観察指導員連絡協議会
 - ②大高緑地公園の第1駐車場奥9:30
 - ③佐藤国彦 ☎05617-3-5674
 - ④冬芽の観察
 - ⑥新人以外の方も参加できます。
- 申込不要

「1 月 1 6（日）東山八事裏山観察会」

- ①東山自然観察会
- ②東山植物園ロータリー南9:30
- ③鈴木晃子 ☎052-834-2094
- ④静かな雑木林，変化に富んだ地形，池，湿地などが見られる観察ルート
- ⑥毎月第三日曜日

「1 月 3 0 日（日）総会」

- ①知多自然観察会
- ②東海市農業センター10:00
- ③加藤寿芽 ☎0562-83-8425
- ④93年に実施した行事の反省，94年の行事計画，懇親会

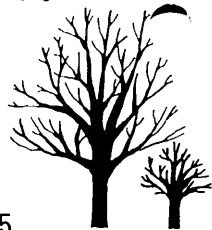


「2 月 1 3 日（日）大高緑地公園自然観察会」

- ①大高緑地公園自然観察会
- ②大高緑地琵琶池ボート乗り場9:30
- ③石原洋一 ☎052-624-1998
- ⑥支部総会は産業貿易館で15:00から

「2 月 1 3 日（日）新人指導員研修観察会②」

- ①愛知県自然観察指導員連絡協議会
 - ②大高緑地公園の第1駐車場奥9:30
 - ③佐藤国彦 ☎05617-3-5674
 - ④樹形と樹皮
 - ⑥新人以外の方も参加できます。
- 申込不要



「2 月 1 8 日（金）発表会」

- ①知多自然観察会
- ②阿久比町中央公民館18:30
- ③加藤寿芽 ☎0562-83-8425
- ④「1年間の記録発表会」
- ⑥調査結果・スライド・写真・VTRなどを持ち寄る。

「2 月 2 0（日）東山八事裏山観察会」

- ①東山自然観察会
- ②東山植物園ロータリー南9:30
- ③鈴木晃子 ☎052-834-2094
- ④静かな雑木林，変化に富んだ地形，池，湿地などが見られる観察ルート
- ⑥毎月第三日曜日

「2 月 2 0 日（日）自然観察会」

- ①知多自然観察会
- ②武豊町中央公民館9:30
- ③加藤寿芽 ☎0562-83-8425
- ④雑木林と両生類の観察
- ⑥車に分乗して移動

「2 月 2 7 日（日）身近な人里で自然観察会」

- ①東浦自然観察会
- ②東浦町文化センター9:30
- ③降幡光宏 ☎0562-55-6855